

■（165）子供たちが植えた桜が後世に伝える津波被害

「緑のバトン運動」の取材で、岩手県山田町の船越小学校を訪れた。被災地の苗木を全国の学校で育てて被災地に戻す運動で、子供たちに被災を忘れないで欲しいとの願いを込めている。児童たちが校庭斜面で、津波の到達した高さにそろえて桜の苗木を植えた。

津波被害の記録を残したいと、今月着任した被災地を回っている。証言集をまとめて出版しつつけている被災者や、多くの犠牲者を出した施設の関係者……。多くの人は当時の出来事を話し始めてくれる。だが、想像を絶する津波被害だ。次第に目に涙を浮かべてしまう人も出てくる。

つらい体験を思い出させ、申し訳ないことをお願いしたのか。取材する側も苦しくなる。それでも話をしてくれるお年寄りがよく口にするのは、「孫やひ孫のため」だ。記憶は必ず風化する。体験した自分らは絶対に忘れないが、教訓を文字や映像の記録に残しておかないと、また津波が来た時に被害を出してしまう、という思いだ。

三陸地方は今、桜が満開の季節だ。同時に、支援で全国から贈られた鯉のぼりも空に舞う。各地で津波到達ラインに桜を植えている。全国でも花見の度に思い出して欲しい。(山)